

保育所定員1割増

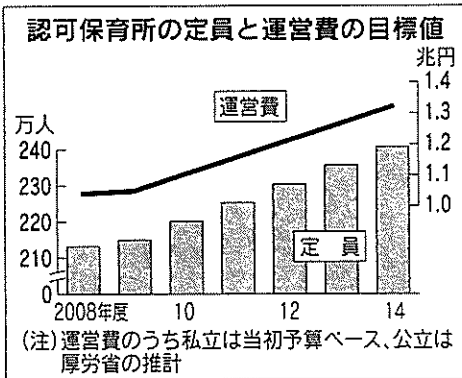
3歳未満に重点 厚労省5年後目標

追加財源300億円

地方と負担額調整

厚生労働省は2010～14年度の5年間で認可保育所の定員を1割増やし、約241万人とする方針を決めた。保育士の育成や保育所の改築などで1保育所当たりの受け入れ枠を広げる。特に保育需要が高い3歳未満児の定員を毎年5%以上増やす。厚労省は国と地方で合計300億円近い追加財源が必要と試算。今後、都道府県や市町村との調整に本格的に入る。

政府は政権交代後で初の少子化対策大綱である5カ年計画「子ども子育てビジョン」(仮称)を1月中旬に公表する。同ビジョンでは、家庭で少人数の児童の面倒をみる「保育ママ」制度など少子化対策全般の基盤整備



待機児童の解消が課題 (09年10月、東京都の保育所を視察する長妻昭厚労相)

認可保育所の定員は09年度末で公立、私立合計約215万人の見込みに。これを14年度に241万人(12%増)とする。これに合わせ、待機児童の解消に向けて財源の確保を確実にしたい考えだ。

認可保育所の定員は09年度末で公立、私立合計約215万人の見込みに。これを14年度に241万人(12%増)とする。これに合わせ、待機児童の解消に向けて財源の確保を確実にしたい考えだ。

認可保育所の定員は09年度末で公立、私立合計約215万人の見込みに。これを14年度に241万人(12%増)とする。これに合わせ、待機児童の解消に向けて財源の確保を確実にしたい考えだ。

認可保育所の定員は09年度末で公立、私立合計約215万人の見込みに。これを14年度に241万人(12%増)とする。これに合わせ、待機児童の解消に向けて財源の確保を確実にしたい考えだ。

認可保育所の定員は09年度末で公立、私立合計約215万人の見込みに。これを14年度に241万人(12%増)とする。これに合わせ、待機児童の解消に向けて財源の確保を確実にしたい考えだ。